

令和5年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 2【号】



遊びと学びの育み

附属函館幼稚園園長 外崎紅馬

新年度がスタートし、附属学校園にも新入生が加わり、フレッシュな顔がそろそろ。大学においても全国から学生が入学するが、本学の新入学生は初年度教育としてこれからの学習に必要な「調べる・まとめる・発表する・レポートを書く」等の、基本的な学習スキルを習得するための「アカデミックスキル」という科目の履修が義務づけられている。いわば、学習の基本となる「型」を先ず最初に身につけなければならない。

ところで、十八代目中村勘三郎は次のような言葉を座右の銘とし、「型」の大切さを重要視していた。

『型があるから型破り（かたやぶり）
型が無ければ
それは形無し（かたなし）』

さて、幼稚園では文部科学省より『幼稚園教育要領』が示され、それに基づいて教育が行われている。その中に、幼稚園教育において育みたい「資質・能力」として、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つが明示されている。その内容は概ね次のようなものである。

① 知識及び技能の基礎

感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。

② 思考力、判断力、表現力等の基礎

考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

③ 学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

つまり、文部科学省は「①知識及び技能」を基に、「②思考・判断・表現」し、さらに「③学びに向かう」という姿勢を基本の「型」とし、それを育むことを幼稚園の教育的役割として求めている。

園児たちは、毎日毎日、園での遊びを通じていろいろな事を学び、考え、型破りな活動を展開しながら、何度も「型」にもどってくる。その繰り返しの中で自分なりの型を形成していく過程は、園児一人ひとりの特性や個性を育み、形無し（かたなし）ではない確かな成長への歩みとなっている。